



9
8
7
6
5
4
3
2
1
0

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

此吾

平洲先生嘗答某君臣者言雖詹ニ亦可以見
先生之一斑也 先生逝矣梁壞虫感一社同痛
先生遺稿有文集及雜著若干篇行將上木余屋
心喪靡所寘金因先校此書取篇首字私名曰獻

章梓領出社友

享和改元秋八月

樺島谷禮謹識



石梁舍藏版

傳抄とゆふ君の巻

世の中哉故成由後り所大概高位貴人より
通明徳り極美ある君移るも多位素賤の士是れ
後今勝を極り世よ哉すら今もあひ生不事空會得教と
以て愚老質見空不教度の小車駕と承か候先に高
考の内身分にてケ能く所付心り必ず之常く好学
以次もく力と感心候多老淺學も貞見空々より好学
内裁無事未幸おほせせむきの無後亦ト上りふ亦
文言あて用捨てけらる先の人にトよし天子王侯の手に
在るよりト山野細民卑賤小至まで此世よ生モリぬ

其伝教にてよりて今成立り事五事赤子のうちハ限て此
事はさやくより外事あゆれ残又母がいときがりるむども
いふ事乳とぬく免をいとて若きゆづらてゆがせしも
ひそすか一七歳のうちもあざやうりゆ能ト事ヒテ
事モビード教モそ無理無縛モツクト教(母目もえ)耳
も少へ音もきうき足も傷きル後かかみぬき父母足音と初め
寢床へ寝る人びぢだくゆくかド習ひを月日と持ハムアヒ
おうきせ花とういいうふとお(名ハサム)大ハヨヘリヤウキ
シテモビムキセあいよくとて歩ひむをす時の乃よ
教(ふり)よとが是よりて成長ヒテ十五六とマセド

家早余小立交モ身分丈との付合を以て熟ヒミ
否が西の辯戦接拶も人かののかとなどトヨの小聲
此度生入とす後既とす事不、智りは未だ教かくて成立
シトアヒ事の然事よお勝く(まきゆわき)何并(わなに)
初年の時よりひさうじておきこと有り候也又母之守ね
日といひし歯とかおぞー戒めてかくするのぞさハセ
めのとてあうのとくは本初見の付うとの事を乞
乞事おとす事と自然と竟(くろ)きを恐ひ大儀する業
と取(と)りひ人の事と目教と悟り成長ヒテルハシ
利教(りき)も惡耗(おぞ)も人間互應の如ヒテリヤウキ

其や小福德厚く受けて生まし人物ちうどひはうつ
とあくまむ學問ねよきアリる事後とやア講釋あ
承りテ死念立系るよ邊日月小面白くあまう
シテ久も教ます辛苦心芳シモ自己と好ミルもよつじ
ミ父母兄弟のモト難シ他所化國モモ越僕人の文アシモ
廣く致レ也其用捨モ致レ致ひて飢渴難後どモ
オ小えり人情の厚薄人事の苦樂と無一毛ア望む事有
人と見きアヒテ之教至精南と願ひ蒙て吉寧の母の姿
あ危をモモテ金仕身ヨシモス様モ幸モ有
自然と人モ信用をみるがよ名譽の人とあまふ能キモテ

高位貴人の前より伺候一皆國あ氏の後モ即ハ往
ムお成りすム所は難き賤き作業ソモ姑古修アシモ
取リ是モのヤアシ上モ切者ハお成りすハ古今無二段と
あえドム古の聖王曰え君トサ共胎教トシテ様姪内
おまとほり生もあも日うち対相輔佐の大臣忠信駕赤
の侍臣左右前後より互ひて起居勤靜アギアシズメ
連のアシズモトシテトクセ父母兄弟のやくあうのアリス
リリ有ルのちと重きは是君ノアリ急ヒアリシム

也多ひ序

東照宮乃御幼年より手辛万苦と爲る極り天下の王
之成程ハ一俄も遙く彼は傳へ奉りは事。庄屋が多
かずて目立て沛代とす。子孫は長久ふる。蒙ひ
ゆく。庄屋礼世の村を相。考。所只今國主城主の
面。其先祖とゆう傳へゆき。辛苦艱難ある
低木。庄屋絶。下。庄屋然所

东照宮の傳幼年より。辛苦と。おもむり。傳。うげ。以て
四藩太平。小一派仕。弓。袋。小包。太刀。刀。鞘。小納。り。よ
よ。す。よ。年。積。り。せ。移。り。寂。ふ。或。百年。の。安樂。せ。思。よ
生。も。人。臣。下。下。小。何。う。忍。氣。を。じ。も。ち。く。次。ま。く。よ

驕奢。其。の。風。俗。あ。諸。侯。吏。人。ハ。役。の。内。の。諸。侯。
者。入。そ。生。き。か。か。い。す。る。日。より。そ。は。な。か。立。寄。り。役。の
人。唯。一。筋。小。機。嫌。と。伺。ひ。也。役。と。ゆ。い。づ。い。さ。多。故
め。ら。一。事。事。も。な。く。い。な。大。く。い。ほ。め。り。如。一。役。行。け。き
ゆ。有。も。す。と。それ。が。た。ま。り。る。婦。人。孝。子。の。仕。回。あ。く
面。と。お。り。多。と。も。と。角。立。ぬ。と。中。の。ま。ま。と。お。り。く。も
人。君。の。作。業。ハ。冠。裝。束。と。美。女。仕。と。よ。が。一。立。道。す
ま。ま。お。と。よ。ハ。一。言。の。言。意。も。教。や。う。ね。幽。る。ま。ひ。終。ハ
是。と。感。夙。あ。る。君。と。称。一。と。い。も。も。と。大。儀。苦。勞
の。シ。テ。禁。と。も。じ。と。う。ナ。ふ。つ。み。と。す。ま。と。ふ。み。か。り。ま

恭謹謙讓の姿（すがた）を（もと）あらわすよ恥（はず）。下人（げじん）のいは
もまた、衣紋立派（いふみだいぱい）で、因口位改（いんくわいがい）て是非（ぜひ）を意願（いがん）の
所（ところ）に、一言もふり上（うへ）と君と申ひまよと申りまよを凡今
ゆく君にはまよひまよひ日より人の實（じつ）に實情（じじょう）の取扱（とりあつ）と
対（たい）するを察（さなづか）ひきしむるを偽（うそ）ほ偽（うそ）ほ偽（うそ）の今抱（いもど）るの
心（こころ）をも爲（つく）（人情世態（じじょうせいたい）を免（めん）むその道理と情（じょう）りよと
き仰（あお）りすく成長（せいじょう）の度大驚（びごく）のびのびはづくら考入（こうにゅう）と
申すよき所（ところ）を人（ひと）としてあひき大切（だいちやく）となすよ
との思ひよしと成りゆす是非（ぜひ）もたらすかく（かく）ふ
空氣（くうき）の氣質（きしつ）のは貴重（きじょう）なる人（ひと）も我が一族（しやく）があひの

身の上にて是種彼の株嫌とさへ大切心得をばれ
物と分てゆる事多しめと後まつせて人の心と取ふやうに
ゆきあはせゆくえの代り不なきぬトドケテ理
と存ル 其中も名将賢主とゆヘ若れ久人より分か當
る事人よ勝也我一已切 菊も名ぞ免る事ハ何の事も
菊也と申す所と原く多角にて家外眷屬と
せば手足のめぐ大ゆく存ル 其を多きの助といふ
即のまことあま時、忠義有功、徳才兼備
とも抜け出（オカ）かえて、重寶を改め、其人ぐも
矣、一身のかく、よりも大切が改め、もろの力と限り君

の為國の為よりオセ茎芥とも云ひ君よりさへも是の
りて世の傍りとも多めよつとせ、余と捨て諫を教
訓をあつて君と明君と仕附れ。我が名をもつかうて御て
君臣也。今の世その事半とた成りするは度に只
今の世ハ君よ君の聲すら體りともす。高位ある言
はすま生落ひなうむ所志はスミト後代称せられ給ふ
一き福徳ハキミ生れ付玉之無在也。ゆまと有る
おもてまの諺氣術を内説すが故に伊湖の名を人ハ
れく人よおとくきは人がりよお手より馬術もゆき成
人はわざ處るも改つて人へ名はよあがほ一はもおまか

一度もあやや聲すら體りもなくて直よ達人ハあがり人は
多ひ人君。幼年より志立諫諍の如小仕あらき後
てわく赤面と成り宿の人がつてもの君實將小なり
多すとあがみ是。今の中斗もいそく常くは邊成
り通古今の書籍小記ト聖賢の君と名と残。然る
君唯此聲すらの功と稱揚ひ一人しては嘗てせば
よリ盲蛇よあぢびとよしめく。勇氣なるとのこそ
角びとらぬ。然るも多く我とよし蛇自小一虫
ねよど一けあくぬとけで足とちもりとやかを覺
え覚えあると云改りて古今のあと不あ何りやぬ

忍しう事をひ用心も無く善理を度の事も泡氣すに
あふる貴賤が浅やゝに傍り心厚と更り人とも見
いと誰も喜まずうきよたゞ一生をとま木の枝くら
いれぬオとゆりすうのくに、何花事もありか下枝事
ちくよと因友若の下枝て消すてりすくは生前文
も下枝通素族のオと生毛はねむなり人ばオと珍
付の率一生とあふふ人ともんらしくいれりきよなりく
はくは堪忍苦勞と改一カふオホ無かおのきづ力と
盡一トすよし能く其事より名譽取るもの人も多くお下

筆事富然に種小出産を貴人と生れひをかず下枝通事芳
も人よを思ひ思ひ人ふさを我、あそ一生ハ跡とすすむ
賢知方徳の君、移成よとわく(下枝)がやめを我、象
て跡よる辛者づぬとのと下枝おもひはだ人と生毛
る人をうのかあと天(う)うもうく(下枝)甲斐もうす
あう我ら思ひ思ひ人ふさを人思ひ思ひ人ふさ
生毛ひ思ひ思ひ人ふさを人思ひ思ひ人ふさ
とのふ内生毛是とり尸毛肉とヒ族生毛元ども下枝
あき人よしに仕事もすにて大きある赤子の上

下品をうり曰承かせどもトロヘ、是非言ふの所には
及べず。君侯をとひ黒報目生は人尼よ生れあらひ
又事より天福主人もしら筋きテ承のをふやて内立入る
しるからくまでのか切のと及ト著事説ふままで目生え
ゆまに御事人君の被事ち腰りとひ積多り候代との
證よりの承り承とす處の思考とひ積多り候代との
事より上りテハシム常くお義内親と近きせわふ
方より道理の底辺を大略説トありとおう思ふ誠恐
先ある由切向付思意節より承り是もおけ内親義よりの
坐事たまは付右て付思意事も後述して御長をが坐

君侯也已と色も無く世子と義人君のひはりと付少く
度恩旨の内を悟りとは則め内にのとひ哉事あ義内少
おひ度名古の由事承の付先を書り上り通人君もひ
附りへ常くお義内親り西書立縫と初め凡ちあと一枚付
聞きお義内をあとくと其事のとてひ度名古を誰
不ア上り自見とてお義内を度りお義内通内自己印
しと能あらずとあくひ度り述て者お義内通内自己印
忠厚すは爲者度ゆるを承せ子の育ての後も持文厚く
すすみの南雲洪之画モハリ五画十画のとくハ

金とく称をひひる太刀力かほへりよもまれ味もすうど
も居重ん天皇櫻も前立の位そハ弱く打もりと段メ
込ミリ也もあひよくわきふらはまあおひたほりと人も生れ
トモリ日不ぬれ風ふりあれ陰陽自然の意を傳すと書
トモリひ人善病壯健小生立下す西庭花苑小賣人下
とよ、生毛で下り世をひと更替してとあくひがふまゆ
も自然と育てよふせんと更替してとあくひがふまゆ
ハ何事もまわらず不系次第とく不扱ひすやうと書
あひゆ依まきがや懐とゆひほり爰すと中また者後だよ
ふりやかく紀のまほと改へりす初年より入懐ひゆ後
ひかく空まく良らのふい筆と作りらぬのふい筆と作り
ゆ人のゆり自然よ空まく先もす古が筆業とあ改度あ
り、と先り就く筆業といづりろえせりゆめあもむ
中空まくしてゆすも筆君の極き限りと中仕入はめ度
上通りのすには幼年より紀の本ねひと筆業
引と彼主とひ丈まで熱いきの匠を大傷ひりとある
P仕入ひをがるの筆業も次第小苦勞難義もあひ
筋筋ひりとゆるも面もあく付Pひるやみせうこまゆ
Pゆゆせうるとえまゆとゆまゆふつとあく上の名余

お成りは尊御第へ性教訓とすまうやるうあくた、（信ふ事）
おまえを兼まきひなくせひ立候よ奉人へ生れあそり
前後をあが厭へソウツウリシトヤアモア改メルヒトヨボ
トモテお勤りハ思教モ事立事立げよト候のタ分
トは進ひ厚候なうよ國税せられま民のエホセミタモキ
身分エホセモアレバ因縁押つけ押下けて取扱ひて下
詔ハ勿論事様喰と例の往來か候行もほづる者
ア役事よりは併此ソウツウての心ね次第モシムの
弓矢ひお成りす、當事者も實る主人と大切よなーりく
室所の主とお尋ねとなりひた爲り侍臣をかつて

常く傍そりがはさゆ内すも為よお成り節と至矣
傳脣すら先まよアリ通あまの様喰のミと
仰ひあや首尾ぬるを極よのミアヒ人斗立あひ
介抱いこ一ツも思せ小附トヨ壁の通虫のおりにあ腐
其ひどきをめやひ是と考よ鳩毒とすむる候の
片手の世事と無一これひぐ人君の聲子の宣初火一筆事
故あすめやちゑと存り人安あ生の様喰とはぞ
いふア若き計とす考を坐まし若けモア虫の葉とせ
話すよ山道古の葉ハカギに猪ふとの事トは古今
の名将貴君ト中経の人ハ此からと云ふ人と承れ

取る耳と云ふ事と厭い嫌はれずと云ひ位
人情より云ひあと我國志のうゆも人の事事ふさん
うゆ其い云ひやく檄書を撰よ若ひハヤシカシヨ
中度中度まで主君の威ハ爾過過もとをもの」
由空由空中中かの事事ト云ひ齒歯縛縛モハナリ
至る難難すと及及ヒテヒテおほき事事ト云ひ質質君の種種きとを
うれ度度多多うまづは事事と云ひ方方付付取取リテリテ
の儀儀と云ひ事事と云ひ上上トハ内内傳傳リシ成成方方名名雅雅清清定定
アホアホもお調調ひアホアホも云云まへ止止
人君の側側は乞乞角角而而小小とのと云云人人と云云石石便便ひう先先一一事事

豈豈云云所愚愚老老の事事以以趣趣と有有合合はは付付あ取取り
りの事事大大業業仕仕不不儀儀是是非非景景與與と云云改改キア
立立ヒアヒア不不禮禮の入入ヒアヒアと云云欠欠キアキア也也事事付付
めめキキ多多方方立立業業來來ハあるあるかか當當立立也也事事付付
然然く亦亦君君と連連なな仕仕禮禮の入入海海山山は無無くとの
小小事事不不許許もも持持人人はああ思思可可かかきき人人
矣矣トト本本居居もああむむととかかも數數改改キキ事事不不
快快也也トトかかだだありありるるももとと色色トトももけけ
能能儀儀もあありり、云云ままされされをちちききで少少くくせ捨捨實實

道理もきしめうむをもとよりおまねくは學
教義とおもはる事非正氣を失へ人のが外れぬと
いふ所が人を立派とむせよとあはれ人よだれとさせ
ゆふが学ぶとおひらゆうがまの學ぶとおひらゆう
大學へ道へと渡へゆつて事へとすまへ渡るへと
其次とお度お義り人との事へとすまへ一つゆつ
ゆうゑとがよドリとあゆのかげで柔らぎの人の
雪をめぢら前へゆすむよもよひとも御一才もも
ゆすす又自然よゆす世話わゆ通ぢりぬ經讀れ
ゆふ事へと質のとよも自私にゆきせよよも

トド人むちゆむじーへきうとよとゆすむがふゆ覺
成り通すり聖王賢君の天下國家と活めびよ通す
まゝ人とくよ教え立ひ活のと初へゆすむ人ふるをゑと
一きせびエとせよ悪半尤かとくすり天子の威儀物そ
もか無儀君をゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆとゆゆゆ誰かむとり不学とおひきくらぬ之
者弱きの時人のゆゆゆり事ひくとく或主人主ひゆゆゆ
ゆゆゆと常へゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

おまえ大学の講義とわの口とが一度はやめにいきま
せんぬときおまえの目と音一節の月支ういも
暁のまゝ誰かよ人の火は大毒とゆつ
事は事は月除かたむほのうを僅氣泡やわち
計生らるる角立事の迷惑あたまに月大行大又は
多く訴訟せりて一座山中下山不以て又立場
老とねり謹慎とみ改前初之程ハ又月と音にて
門うきて志あるをい容ふて度所右の佛者め能
満一歳未だかふ面赤く見ま一向正心が如き
高處大抵が如まづ經りく門の前と仰りたま

り有能程よ謹と体すらおきぬをねて西行すを嘆大抵
まであるゆのあつてあるが今一度中身よの像をまう
考え謹りとおもふ氣を出で月次寺へ道程を含む事
ゆく、海程ほめの程の主人よもお尋りゆきるやめの
儒者、さう六ヶ条自分が多事に務る事のゆきと直往
切向とも今ほひは度嫌めよ道理と細きよ近する
事りと有りがたきといふ事け本は耳より付く
よ我一の評すも少くすれりとせんがほりの假
言はるの傳者、空も心も書面も通達も彼も
含めのおみりゆと大きやにすくや謹山甘林

いふ迄の道程よりてより實をく面白くのみに
等々事あらずむる法氣すかよと又人ぐ嫌ひもあ
成りものあらずの茶しゆ跡鶴筋を手てすらうす
内也底までりと其道とぬしゆを面白くあ成
りる人情とて空ひ是をふくとせ活とも下も嫌ひ
かなれ上もがねてふたりとも口喰ひ不得ふ成すまう
よもやなるもやひを角せのやうもあきことのよ雲
ゑまくら喰ひ乍らあまはまつあめう喰ひかく雲が抜
あまく喰ひとまへ先つまへ入う嫌がよのそひやを
喰ひ好まうたううちへ改めて己が下も教改

とのかんすまれば人の孚よふよあめいとま人のねが
幸く出来は景氣利害と無人よ利害と能あく喰
トあともも人も出でぬがゆる景氣成り得を終る
空景氣よが能う度を角したまわの差別がざむらりと
其人お應こ却れとかけ道程のうりの程はあめい
あまき事なほほじ一丈もよろめくゆえくお酒と人
柄事くらう他所化國の人もよほ注文つけへり人と
雇ひてゆくゆくゆくゆく雇ひてゆくゆく
あえども先を大さくとりて天地の妙用をも聖法の天
子とゆどひあり侍所生化のゆと助けてゆどひ

義成は天子の侍候とて御殿と人間海と泊め玉の國主領
主の事を詔教の人とて厚とひびきのせ詔とさせられ侍
は總持仲弓とて多くのまことに傳と助けてさうへり
ちばくやう人の心の猿は一身のまふりをもととる
あひつまきをもととるをもともとはれをもととる大おぎ
そくふゑや指かねの手作ひと庭ひやうじがすでます
義成ゆの爲まことすらあるもの武将も勢力とあく度
持主の朝人、大身たるふとく坐る綱子附武を妨げ
も已き今も一陣の戦いおもふべければ度のよき

美目をうるすとて心厚すはなめじとくみゆきら
あやまは六十條川の大が名と能立雇ひもみりあがく
一縷立卒をせぬに他山の石をく砾とすゞとく時の教
一が事もせぬ後はすくはま相列わくおみの施とくす
るはまれぬとくはまくの細雇ひとく時ハ作画とく人
の意のめぐらすくはまくの細雇ひとく時ハ作画とく人
の意のめぐらすくはまくの細雇ひとく時ハ作画とく人
集めりるゆきやうはまくの細雇ひとく時ハ作画とく人
とくとくよきいまのまなる儀方よりすと心がくとく

とあめどるすむなくひのじよこよみうらへて已く何
あくねあり只ひめアテにほほむたて合意の事をよ
みゆきをまへ人まへ持ひいよしむをまへとえんひ
れ、あずへあめめお中やウツヤシムをまへとえんひ
ウツヤシムのまへをまへ一同かゆくはまへのわくも
あくのわくもちく上ぐけき下のわくも下うけ
は上のわくも下の道程を教へあうさくすはせん
師をさすよと下とすりくわくわくあるとせん
古今大ふゆとすまへ仕ひるはまくとせん書やせまく
トヤ成碑あみすまへ何とゆくはまくとせん書やせまく

唐度依々古先聖王より後世の以君賢くよゑるを
仰そす筆ふれがひす、常く教がほ説ひ書面に通室
ひとうあいの考へ計りとも無事我朝代この天子
教主のゆくとも仰そとすまへお方は沙門ハ如律
あるも書き傳へ給外ようやくおちゆなうすが少
一トは先此後と多言ぬれ難共がりう丈うきてハは
家は本傳ひとがりまく及下ろおひめおれよと田地そ
も種とまきかやうるトトは苗、育ては

先書之源は後もうひとがり角田内家事すと種を

は荷物もあらずおまかせを右移へあがり人との肩のアシタ
思ひどりを松文雅の奥底の操作の方をまねやうとす
は事実の如きは必ずづ人のや能い一物は無くほんの
みえず、ゆすぶらぬ一人よナ若と仰ゆる、空人の外よ
は居る事後とされあむた併合を察するもまだ口舌
づく大概あき合なる事のすぐなき人と種みをあ
度不異今まはひそちより字あると多くひづり字
心もあぢたりふだりゆくに所りて白山あがりと
多くゆるがゆる能よ浮ひゆひつらわ後とはあがりと
さうかがれ不義の行のゆきは多く芳房よゆ

人、其字句は食違ひ口音と不真合人より
は度は一ワニラとあげてゆかずも仰へ義徳と申すが
亦自身の所なり、親兄すも有りてかくに猶御
ノ事あらうと云ひてゐるも多々今あるうちと府人を見
て一古賢先生坐とじよと説傍一珠の實者ほ哉
よき道理もあやむれあひて、有りてからぬ教わ
忠生らをひりとこそ謗謗の徳と称へりすりなまと
さまで又あゝとぞう事もあきとゆえ大相小口
ゆきと俗人とあつて、と自己のを極めひとと
吏掌よりもまた人とりゆるふり失念のを安

人より出で候ある程薄々人情ふれ成らぬと見え
見する間とまふ事小何ゆるやむちも事人を
あらう此学の爲めして候トモる人をありテ世
上あづれ程ハ一粒よりのそみのりひたまを粒万粒
三千五百粒をあらう事が儀はすと仕一に詠す
きれば五六十支大車をかまつて車輪も數十枚乃至四十
は人の間と待とのふはす三十の内三つやうへあ無ひ
あり。つセク位を并びあすく人の位作せし生いふ
トは博学多識を論べ事あら純じ唯持後
多才色をも躬行こぎゆし善よ々よ人を用ひひよ財を貞

宗正家を何をか孫を接つするりびをあとを拔ぬのゆ
そそ縁を持つ因ゆき拂はて用ひとあり内のうちよつう自身
の怪あざわらとれどゆひたりを先さ素そ志むすめをうと
夫おのや人を師せ長じょうよ西に朝あい可かりゆはまままま志むす
とと、幼お手てすりぬととりゆきを志むすとと持つ直
筆ひ事ことの書かひまひりととりゆきを切きり平ひら生なま所ところとと
壯だきをあめりととくときを行はとときをまめ人をま
行はゆる人をよしをえゆきの人を間まかままま仕つかがが
とと向むかふが合あひ可かりととくとり成長せいこうとときを師せ
とと立たてのゆゆととありと改かめめ徳とくの士しおなりり人をゆ

有事より生むる人君廣く人オと譽められ
日より生むる前も亦後とひてお捨りゆる事より
をうきの人生もは世人よりお前ケ折くおもがいと
折くあがて若とぬけの人もうきよの生むるへ先づも
そのなまじと仰長より立て人と教へをせり材をやり作
作もほきかどなく教訓と身用改りゆる事よりうきよち
巣窟にゆけりもかゑりゆく事より又年生躬けり更
前内も生れつき家屋に多きなる人々の仰生難
難何處からりともある人々東育くや心持之柔好す
柔を作り氣は取向安逸こそ百姓の菜大根と化り

り私より教りふゆする菊のさくと作りりて花
形之事ふ折り葉糞計と喰せり皮角を枝とよ
より阿字とのは、ゆまとつまとつてのび、とおばんと
ちづめあめ通り小喉すドモ衣ハを煙中より一束
立せふやい不姓の菜大根を作りハ一束一加ぬも大
切よ歟一烟の中より上生外を一ぱも省大小不拘
りゆも束より大事と育てりあゆきとこうよ食用小
立てりゆ此度此あめの心持と并へてすら生雲人
タト一株とは争ひあくそ一概にか持方の通り小の
仕事よりは争ひあくそ一概にか持方の通り小の

の小學書初見方を考へて相應に取かひゆる者
竟よき人よとお成りく何を用ひ立よと
實得無く識度持りたる人ハ師長よは難取く
思ふ先づれ所の助考てめの書かばの種の撰
うる教説也あはれも有えり志愚童大
概と述以

近頃清流を重んじる所多あらずより其も
不外儀と名ひむすうぢ儒者山雇ひ指南山教義
度只言ひぬ大島付掌向の種々流義と有りうけ
きうれぬ一变教成りぬとある付行づる程朱掌

仁齋派徂徠派二流内是非と取扱定ひる上古
の學事承知候て併し愚老式先賢先生掌に學術
甚き非と取裁ひ上古なし。而して中と顕及後輩
は之以一家の學と與下の種の人を何とせ小一世の豪
傑ら各所見有り。但一聖人予す事より
ち人こそ非得失ハ勿論有くうちの少く庶度長と
用ひ短と捨てて何と何と利益に多く学も有く方
安樂其門流くる其師學と推考取りて是
又をなる儀みせず去る流もしま学未熟の人は
讀て一概よ其書のと諦て言のと信一慶く

是非得失と詳考ひ致唯其流毒とかばれどもま
よのれ。唱り事古今同樂。所云は解て、傳家より
序四案ハ家々あり。云々がうりにて定るに佛性か、
有るなり。傳者も言論も種によはせり。大成徳行
外無く私心無ゆ。云々を其傳の所。次オ佛性と
云ふは、何との淨ち。は生ひて致の傳者も。人
の情り。空の義徳とたゞ成就致り。何との國家、
私用。立てよ。方より。より其人の傳と云。探
みれ成り。流矣。所りさの。云々探す。りやア。終結
をみ。已く。流矣と偏居。よ。唱り。他流と排棄。

改々全く其傳者一人切レ私ム。とて。生度。人居ハ不
民の主。云々。何より。も。寫字。美。り。と。嘆。者。と。用
ひ。成り。る。一家。國。人。心。と。教化。も。一。种。し。風俗。と
莫。要。也。成。い。よ。う。云。道。な。る。ゆ。可。作。小。事。但。一。芝
ま。追。に。賢。も。通。偏。僻。ぞ。う。人。と。ハ。師。長。よ。立。ト
成。う。发。よ。俄。彼。勇。好。の。ま。く。化。り。後。う。は。改。ら。ま。ト
桔。梗。紅。白。黃。素。咲。更。う。い。る。り。つ。も。も。生。花。入。園。い
時。山。生。源。寺。い。い。い。が。も。黄。あ。す。よ。そ。香。か。ば。く
花。形。又。事。よ。開。き。と。何。十。草。も。を。瓶。置。く。せ

可成りと有候。是よりてこととてねとつば
もひより捨ひぬむぬの事事一念とやうすば方氏の
主のめ母はふすすすとをなへ人のりは善焉唯二通
りくままたと貴人をもくす一要人の減一筋モトヨリ
外、尊化の幸焉、多きに便とをあへおう一毛もどゆ
りくちくひ或くうち、あの老師宗虎の内より毒
作一筋と承り恐るべく深くお誠せうじゆ
に世の流もほき氣佛おなづぎとくせたれほき義
と信一筋もくちく中く極矣は生ふも成るべく
其人ひ方教のみ承り、代は乃もお祝友津をふ

人取病死ゆる三日目よりまかえり。山宣途まで地蔵
寺まへて、より遠い地蔵極樂堂と山々をくぐる所をゆり
出でて、事の念頃といへば、はよお宗流の内も大分
釐金といへる居間の者も、ぬれ泥立ほひのものすら
於て一枚、法華佛小字をすとしも教説、山本と申す
老僧大さうも多きと損一ぬて、若く爰すよひた所
あれば、何んめえと窮ふたゞかはれたまひめや、或大
な業人手改せ、あれど源室と人の一枚、其後成
りゆき、他家と念へりとよどむこと、もさと夢葉は生と
爲取引ざえ、門あられずす、ごめんはづかのふ

都會とおなじたる處所をどく家第へは生れゆきと
願ひい念へ奉りまことに大師世上の儒者も皆け序古
宗廟序と一般の文誠とおなじ古今の清流せ法道
そひいづれも先聖後聖の教と云ふ崇いゝて
爲ふ事すとひ孔孟の本意すは遠いゝともかく流
系の根のきり下に達ひト古ふとよす。併し今之
弊政後とひ跡は今世ふすとひ人ハ一流を苦
せれり人の才子も空むる者あらずと生貨魯公序
著よも幸小幼年より書わと後ち奉廟序
の後云程子朱子ときてと曰へ仁義但傳承す

見後ともかりる其貌よりぞす志より見ともや
孤もあ成りゆき古度ながす人えれば愚鷹彦大
至重から後よみびに併うとの觀の教(此りすと
も成長のよと考へ給ひ)一概にち承も解成すも
をゆくもよのみとんばくがまと月代別りに
時の多すもすく承の下にたるもとて是非を體
執りひら大石通と仕かへひて承のひそはる
のうげどうも解り候ひ改竄ありめ竟室漏と云のう
候は極ほ微底の跡とはぢくら變ひ學脉のとて
ほりゆりのけけり及ぶる儒者も解作人ト

人君の學政とは世話をされりと意は能致て人民と
皆ふ向うせりるゝも勢より程朱学とすひ人ハ
徳を程朱学師より学リセ仁齋徂徠と云ひ人ハ
かとすりそひあ徂徠学者よき者セモかくを
人と能くうひる事ふなり以れの教化と學
は何流とも執法と人との教化を仕立と參
の學問とくらむ名石は經とても仰り益すと申す
矣の事すと申くと古賢先輩とて是を非
得失の事よりてへかけ絶との事石は先古以上通
大辨仰長は事あつて西發行元序氣を申す

而も諸書廣く見渡一古今の治亂無そ人情變態
小能通一唯人と知らずすと云ふトリーの小童
とし何事云け吾心の人よより立り承と實に情
云ひと云ひゆぢひる丈より近く成立りす其
中よりハ一處の大賢英才もあらず下は德志先輩と
至人よよりゆぢひる猶優れ恭をう人と仰長よ
はみ内を為すを由度とす

